

平成 21 年度第 1 回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 議事要旨（案）

日 時： 平成 21 年 10 月 5 日（月）15:00～17:05

場 所： 国立情報学研究所 20 階ミーティングルーム

出席者： 逸村委員（筑波大学），土屋委員（千葉大学），今井委員（東京大学），大場委員（一橋大学），栃谷委員（名古屋大学），柴尾委員（明治大学），林委員（日本化学会），永井委員（日本動物学会），高崎委員（応用物理学会）
根岸委員長，安達委員，青木委員（以上，国立情報学研究所）

陪 席： 膝館専門官，井上係長（以上，文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室）

事務局： 米澤課長，細川専門員，杉田係長，内藤係員，西野業務支援（以上，国立情報学研究所学術コンテンツ課）

議事：

1. 前回議事要旨確認

資料 1 に基づき確認の上，原案通り了承した。

2. 平成 21 年度事業の実施状況と今後の予定について【報告】

杉田係長から資料 2-1～2-7 及び参考資料 1 に基づき，平成 21 年度事業の実施状況及び今後の予定について説明があった。また逸村委員から資料 2-8 に基づき，CSI 委託事業「日本の学術情報発信状況の調査」について説明があった。その後，以下の意見交換があった。

（SPARC Japan ニュースレターについて）

- 送付先は NACSIS-CAT/ILL 参加館とパートナー誌のみとのことだが，他の学会への送付も検討してはどうか。

（事業全体について）

- 本事業は各パートナー誌に対してどれくらいの拘束力を持つものなのか。
 - ✓ 各学会の出版活動に対して何かを強制する性質のものではない。運営委員会は実現可能な方策等を検討するための意見交換の場として考えてもらいたい。

以上の意見交換の後，平成 21 年度の事業はアドボカシー活動，学会誌合同プロモーション支援，大学図書館・機関リポジトリとの連携プロジェクト，第 3 期の検討を行うこと，体制及びスケジュールについては原案のとおり実施すること，ワーキンググループのメンバーについては各委員と事務局で調整して依頼することを承認した。

また逸村委員より，「日本の学術情報発信状況の調査」に関して，各委員に情報提供をお願いしたい旨の依頼があった。

3. 第3期の進め方について【審議】

逸村委員から資料 3-1 に基づき、第3期事業の検討に向けた論点整理について説明があった。また米澤課長から資料 3-2～3-3、参考資料 3 に基づき、第3期の事業方針案についての説明があった。その後、以下の意見交換があった。

- 「オープンアクセスの推進」という文言だけでは学会側の誤解を招く懸念がある。各分野での多様性も包括しての推進であるということが、明示的に分かる表現にしてはどうか。
- 現状では、オープンアクセスという言葉は一律に定義付けすることが難しいものである。お互いの利害などについて、この場で意見交換していくことが重要である。学会が受け入れるかどうかは、学会が判断することである。
- 学会出版活動を継続的に維持し、学会が存続できるようなコスト回収モデルの構築が先にあり、オープンアクセスもその一形態であるということが、明確に伝わるということが重要ではないか。
- 参考資料 2 にあるように、実際上は学会ごとに工夫して、何らかの形でオープンアクセスを実現しようとしている場合が多い。

以上の意見交換を踏まえ、第3期の事業では「オープンアクセスの推進」を基本方針とすることを合意した。また、具体的な事業内容等については、改めて各委員の意見を収集し、平成22年1月に開催予定の第2回運営委員会で協議することを了承した。

4. その他

林委員より、International Society of Managing and Technical Editors (ISMTE)と、Wiley-Blackwell 社からセミナーの打診があり、来年度のセミナーの企画候補としてはどうかとの提案があった。

根岸委員長より、第3期の進め方についての意見収集に関して、ご協力いただきたい旨の依頼があった。

以上